スポーツ庁
JAPAN SPORTS AGENCY

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

奈良県 宇陀市

自 治 体 名 ： 奈良県宇陀市
担 当 課 名 ： 生涯学習課
電 話 番 号 ： ０７４５－８２－３９７５

1.自治体の基本情報

スポーツ庁

基本情報

面積	248㎢
人口	26,691 人
公立中学校数	4 校
公立中学校生徒数	552 人
部活動数	30 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	実証事業におけるガイドライン有

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

当市は平成１８年に４町村が合併し誕生した市である。旧町村に各1校づつ中学校があったため、現在も４校が存在している。面積が非常に広く通学には多くのスクールバスを運行し、通学を行っている。

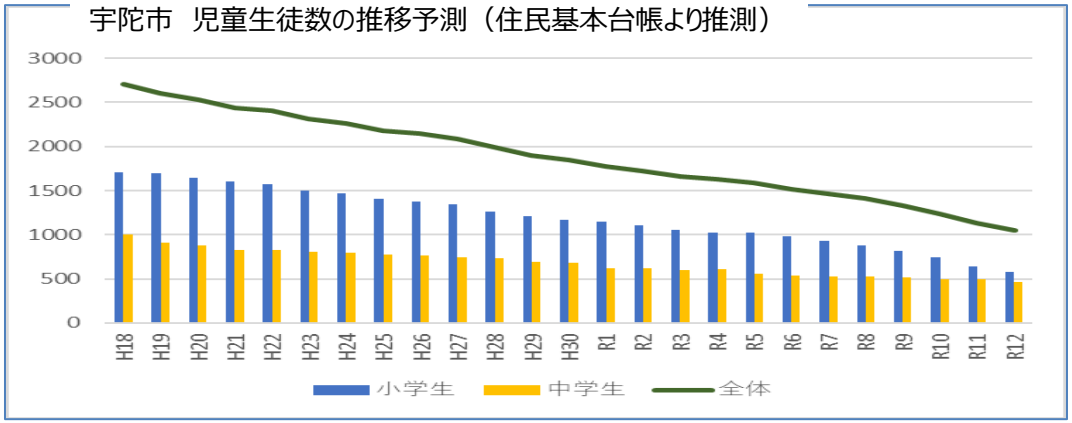
現在部活動は、運登ります動系・文化系男女別に併せて３０種目にのぼる。

少子化に伴い種目数は３０種目と多いのですが、単独チームが組めず他校と合同チームとして試合などに出場している種目もある。また、個人種目でも、人数が少ないが活動を続けている種目も多く、今後の部活動としても存続が非常に心配である。

また、令和７年度からは１校で２種目の新規１年生の募集を停止すると聞いている。特に団体種目では、部活動部員の減少が著しく今後も単独でチームを組めない種目の増加が伺える。

当市では、１年間の出生者数の減少も懸念される。

長年学校教育の一環（学校教育）として実施されてきた部活動を学校教育外の活動として、今のところ土日だけであるが、完全に移行することは難しいと考える。最大の課題は、指導者不足が要因である。

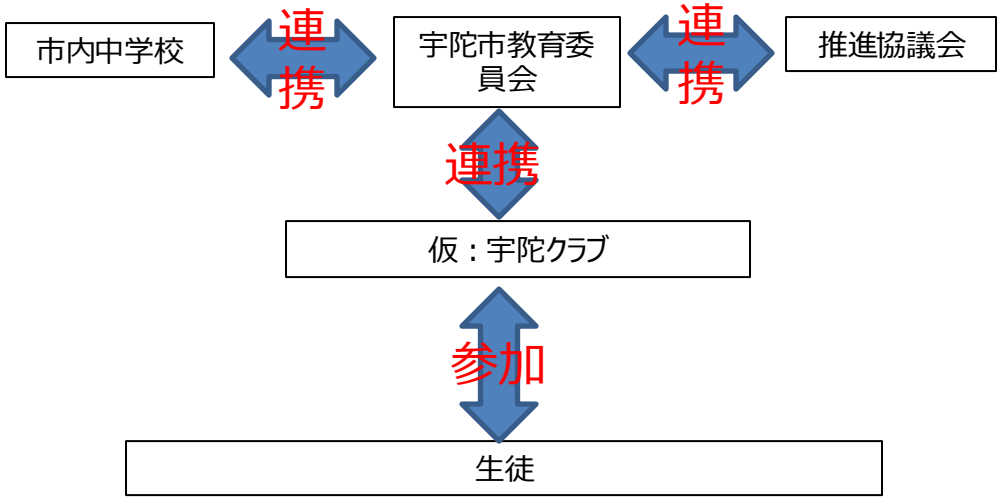


2.実証内容と成果

スポーツ庁

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

教育委員会

教育総務課（学校体育担当課）

・市内中学校との連絡調整　　・生徒・保護者・教職員へのアンケート調査

生涯学習課（スポーツ担当課）

・運営母体・運営主体・推進協議会の担当　　・指導者の確保

首長部局

行政経営課（公民連携系担当課）

・民間事業者への働きかけ

年間の事業スケジュール

令和６年５月	第１回推進協議会
令和６年７月	第２回推進協議会
令和６年９月	第３回推進協議会
令和６年１０月	指導者研修会
令和６年１１月	第４回推進協議会 実証事業開始
令和６年１２月	指導者研修会 市広報誌特集掲載
令和７年１月	第５回推進協議会
令和７年３月	第６回推進協議会

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	４校	実施した地域クラブ総数	３クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		３クラブ（３部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		０クラブ
全体の指導者数	11人	全体の運営スタッフ数	5人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目	実施回数	実施時間帯	参加者（学年別）	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数（他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
宇陀クラブ	行政	陸上競技	月 2～3回	8：30～11：30	13名 1年8名 2年5名	11月～3月	榛原中学 宇陀高校	5 人	行政職２名（内兼務２名）	なし	なし
宇陀クラブ	行政	卓球	月 2～3回	13：30～16：30	6名 1年生2名 2年生4名	11月～3月	榛原中学	5 人	行政職２名（内兼務２名）	なし	なし
宇陀クラブ	行政	剣道	月 2～3回	13：30～16：30	2年生1名	11月～3月	榛原中学	2人	行政職２名（内兼務２名）	なし	なし

③その他、体験会やイベント等の開催実績

●気軽に参加できるよう、体験入会OKとした

2.実証内容と成果

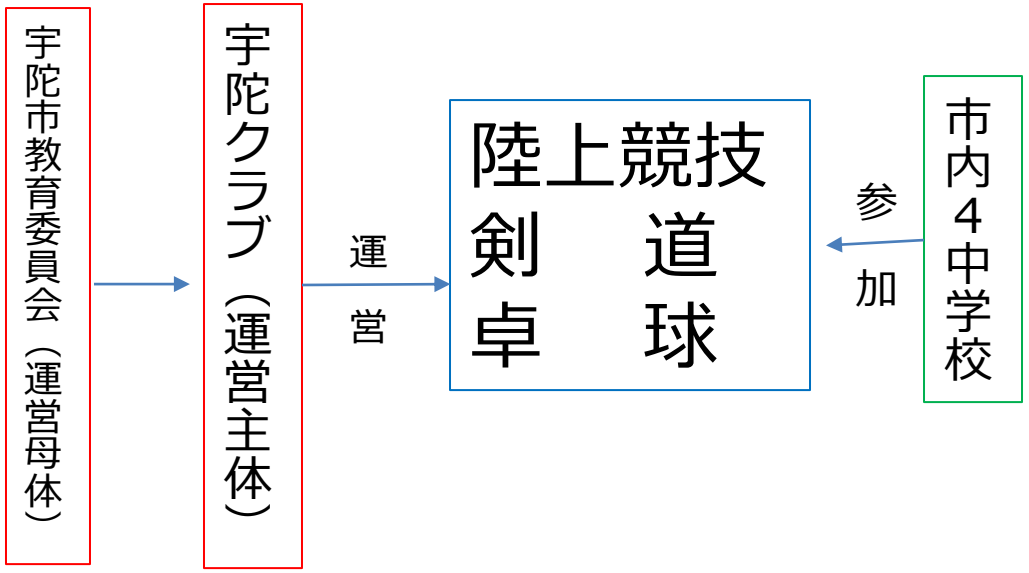
スポーツ庁

主な取組例

●宇陀クラブ　活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	陸上・剣道・卓球
運営団体名	宇陀クラブ
期間と日数	陸上：１１月１６日 ～ ３月１日 月２回程度 剣道：１１月９日 ～ ３月１５日 月２回程度 卓球：１１月９日 ～ ３月１５日 月２回程度
指導者の主な属性	行政・民間・小中学校教諭
活動場所	榛原中学及び宇陀高校
主な移動手段	保護者送迎・徒歩
１人あたりの参加会費等（年額）	なし
１人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒１人あたり：1,450円/年 指導者１人あたり：1,850円/年

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

●主任指導者（チーフ）　１ 名

役割：活動内容等の決定・現場の責任を行う

●運営補助者（コーチ）４ 名

役割：チーフが決定した活動内容の指導を行う

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

推進協議会を２カ月に１回程度開催し、保護者の方の意見を中心に伺った。地元中学校でのPTAの会合にも協議会での内容を報告していただき、次回の協議会で発言していただき、保護者の方の意見を多く聞くことができた。

実証事業開始に向け、現部活動顧問へのヒアリングや教員向けに制度の説明などを行った。

実証事業開始に伴う、ガイドラインの作成や実施体制の整備に務めた

取組の成果

実証事業開始に向け、ガイドラインの策定や基本方針を策定し、協議会で諮り策定した。市HPや教員メールなどでも周知を行ったが、中々理解していただくことが難しかった。

保護者からは、送迎の問題や地域クラブ指導者への信頼性などの意見が多くみられた。

教員へのヒアリングや、説明会などを開催したが反応はあまり無かった。

早期にコーディネーターの配置が必要であると考える。

コーディネーターの具体的な動きの実績

コーディネーターの配置はできなかったが、活動中の巡回を、市教育委員会の職員が交代で行った。

事務全般を担当課職員が行った。（コーディネーターの代わりとして）

今後の課題と対応方針

担当課の事務量が多くなるため（専属ではないため）、実証事業実施にあたり、調整不足が生じた。

来年度は、専属職員を配置し令和８年度からの地域移行に対応していく予定である。

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　イ：指導者の質の保障・量の確保①

取組事項

令和６年８月より、宇陀市地域クラブ指導者登録バンクを開設し、指導者の登録の募集を行った。

実施する種目に登録された指導者を対象に面接及び指導者研修会を実施。

人材バンクの人数

30名

人材バンクの年齢構成

20代	6名
30代	3名
40代	6名
50代	3名
60代以上	12名

登録者属性

職業は、自由記載としているため全て把握できない
公務員・会社員
無職（年金受給者）
小中校教員　など

種目

陸上5名　剣道2名
卓球５名　自転車競技２名
吹奏楽２名　バスケ２名　琴三味線１名
バドミントン２名　バレーボール２名　軟式野球２名　生け花１名　テニス１名　音楽１名
書道２名

資格有無

公認スポーツ指導員
教員免許
審判資格　等

取組の成果

指導者人材バンクを開設した結果、現在３０名の登録があった。現在も少しずつではあるが、登録者数が増えている状況である。登録種目は限定していないため多種の登録があり、今後どのように整理し、地域移行に繋げていくかが課題である。登録者の大半が６０歳以上であるのも不安の１つである。

指導者の確保について、最大限広報を行った結果であると考える。今後も、指導者の確保を優先課題とする予定

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　イ：指導者の質の保障・量の確保②

指導者研修の内容

10月12日実施

対象：陸上・剣道・卓球指導者11名

①制度説明

②宇陀市学校部活動の地域クラブ活動への移行に関する基本方針

③宇陀市地域クラブ活動ガイドラインについて　④学校施設の使用方法

⑤緊急時の対応　⑥指導に当たっての心構え(ビデオ視聴)

⑦個人情報保護　⑧身分証の携帯について　⑨指導者の委嘱

⑩活動予定日　⑪指導者への連絡方法　⑫クラブ活動実績について

12月14日実施　　9名参加

奈良県広域消防組宇陀消防署による普通救急救命講習(３時間)の実施

受講者の声

○良かった点

・技術面での指導　・コーチも信頼できる人だった

・指導内容が分かりやすかった　・しっかり丁寧に教えてくれる　・交流が増えた

・友達が増えた・他校の生徒と親しくなれた

・普段一緒にできない高校生と練習できた

・少人数で部活をしていたので丁度いい人数で楽しく

○改善する点・要望

・対象年齢を幅広くして宇陀市全体で取り組めばより楽しくなると思う

・もう少し回数を増やしてほしい

・他の学校や地域クラブの人との交流を増やしてほしい

・高跳びの練習を増やしてほしい

今後の課題と対応方針

今後も定期的に指導者研修会を実施予定。地域クラブの指導者は、本研修会への参加を義務づけている。また、研修会を実施することで、クラブ員の保護者への理解も高まると考える。仕事等で研修会に参加できない場合などどのようにするのか？など課題である。協議会でも指導者研修会の内容を報告し一定の理解を得られた。

また、クラブ員へは地域クラブ指導者への苦情窓口など開設し周知している。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

学校と連携して進めて行くため中学校校長会などで、制度説明などを行った。

活動拠点を１校としたため、拠点校とは度々にわたる調整を行った。

取組の成果

学校の協力を得ることで、指導者登録バンクの案内（教員向け）・クラブ員登録案内（生徒向け）のチラシや、WEB媒体を活用した情報発信ができた。また、直接学校へ出向き、職員会議の場を活用し制度説明などできた。

しかし、情報を発信すればするほど、試合参加や責任の所在地などの課題も多くでてきた。特に学校施設を使用するため、鍵の問題が一番大きく、また、部活動に支障のない範囲での使用となり、地域クラブの活動日の変更も多くあった。

バス等の運行実績

スクールバス等の使用なし

バス等の運航経費・収入

なし

今後の課題と対応方針

学校施設利用にも限度があり、種目が今後増えるにつれ、社会体育施設等の利用も必要になってくると考える。活動場所の選定にも交通アクセスを考慮する必要があるため、検討が必要になる。

また、現在は保護者の送迎を基本としているが、送迎ができない場合の対応を検討していく必要があり、協議会でも議題になっている。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　エ：面的・広域的な取組

取組事項

協議会で、検討を重ね、実施場所について決定した。

市内４カ所の中学校で実施するには指導者の関係から不可能であると結論づけ、１カ所の中学校で実施するとした。公共交通機関を利用でき比較的駅から近い場所を選定し、市内全域から参加できるようにした。また、陸上競技では、高校との連携として、活動場所を高校に変更し、高校生と一緒に活動を行うことができた。

各自治体の役割

宇陀市教育委員会

・地域クラブの運営母体
・関係機関と連絡調整
・広報活動
・予算管理等

移動手段

１校で実施するにあたり、協議会で移動手段について、意見が出たが、保護者等による送迎とした。

今後送迎について、協議検討する必要がある。

事務局運営の方法

宇陀市教育委員会事務局を運営母体とし、事務予算管理、クラブ運営行うため、事務局とした。

取組の成果

１校で実施することにより、他校の生徒との交流が持てた。特に少数で活動している学校では、活動人数が増えることにより、上級生と活動を行うことにより上下関係などが築くこともでき、参加生徒には、良い経験が持てた。また、高校生と一緒に練習を行うことにより、普段経験できない新しい感覚を持った。

今後の課題と対応方針

令和８年度の完全実施に向けて、実施種目を増やしていくが、活動場所の確保、移動手段が大きく課題として残っていく。協議会では、活動場所から離れている方は、中々参加できないという、保護者の意見も出ているので、送迎問題について早期に対応していく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●高校との連携　オ：内容の充実①

取組事項

各運営主体（クラブ）において、競技志向にとらわれない、活動を基本としながらも、専門性を伸ばしたいクラブ員には個別に対応するなど工夫を行った。

地域クラブ（宇陀クラブ）では、競技志向にならないよう、気軽に参加できるクラブを目指している。

また、高校との連携を一層強化し、多種目で活動できるよう取り組んでいく方向である。

活動の詳細

宇陀クラブ（陸上競技）高校との連携
登録人数：１３名（体験２名）合計１５名
活動場所：１１月～１２月（中学校グラウンド）榛原駅から徒歩約１５分
１月～現在（近隣高校グラウンド）榛原駅から徒歩約１５分
指導者：５名（地域クラブ）
実施内容：高校部活動と地域クラブ活動を同じ場所で実施
高校生と交流を図ることを目的に活動を行う（毎回高校顧問と地域クラブ指導者が練習内容について打合せを行い、合同で活動できるポイントの調整を行う）
クラブ員：中々行くことのない高校で活動ができ、新しい経験ができた
高校生と交流ができ、将来に向けて役に立った施設が、中学校と違う普段の部活動で教えてもらうことができないことを教わった　などの意見がある
指導者：施設が充実しており、雨天時でも十分対応できる。
高校生と一緒に活動することで、子どもたちが楽しく活動している
高校顧問と専門的な指導方法について相談できる
少子化で定員割れしている中で、クラブ員へ高校の良さをアピールできる
協議会：高校顧問の方もおられるので、緊急時の対応や見守りの人数が増えて安心感が増す
専門指導が充実、施設面でも充実　高校との連携をもっとして欲しい　など

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　カ：参加費用負担の支援等①

取組事項

地域クラブの運営に当たっては、持続可能な仕組みづくりを行う必要があることから、実証事業中に収支構造の可視化を行い、適正な受益者負担額を定めていく予定。実証事業に要した経費より算出し協議会等で検討する

地域クラブに係る経費

■ランニングコストの分析

６年度の実証事業では、一番支出額が大きいのが、指導者の謝金であるが、今後、選任の事務職員を配置することにより人件費が大きな負担となる。また、種目数が増えることにより消耗品などの支出も増えることが考えられる。

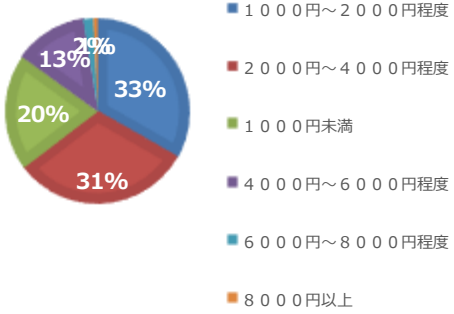
また、種目によっては経費の掛かり具合もバラつきがあるため、調整が必要である。

６年度の主な経費内訳

指導者謝礼等：372千円　消耗品：280千円　保険料：48千円

受益者負担アンケート結果（中学生保護者）

地域クラブの月額



保護者向けのアンケート調査では、月額２０００円程度が一番多い結果となっている

収支バランス

６年度は実証事業として、補助金の活用しながら市単費と併せて活動費としてきた。施設利用料・事務職員人件費などは、活動費とはべつに市単費で負担しているため、数字には表れないため費用は算出できないが、令和７年度に専属職員の雇用を予定している。予算額は約２６０万となっており、高額である。今後、クラブを運営するためには、相当の受益者負担を求めることになる可能性があるため、どれだけ市単費分を見込めるかで受益者負担額は大きく変わる。市補助金なしでは、とても運営が見込めないと考える。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　キ：学校施設の活用等

取組事項

今後、保護者等に受益者負担を求めることから、積極的に学校施設を利用して行くことを基本に調整を行った。

高校等の連携として、近隣高校の施設の借用もおこなった。

取組の成果

運営母体が学校長との調整を行い、活動日（借用日）の調整を行った。

活動日の設定には、学校行事や校外での大会等の日程も加味して行った。

実証事業では、活動日全て学校施設を借用することができた。

近隣の高等学校の施設を借用することができた。



今後の課題と対応方針

学校部活動との兼ね合いもあり、活動を希望する日程全てを借用することが困難であった。

また、鍵の借用、施設の管理面での課題もあり、今後さらなる調整が必要である。地域の指導者（部外者）が学校敷地内で活動することに難色を示す教員もおられた。

学校施設を借用する場合は、教育委員会事務局が必ず申請等の事務を行う必要がある

2.実証内容と成果①

スポーツ庁

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

今回の実証事業を受けて、感じられたことは、教員の地域移行に対する理解度が低く、誤った認識でいる方も見られた。また、広報活動を行ったが、保護者の関心も低調となった。

指導者登録バンクを開設したが、当初は思うように人材が集まらなく、実施種目が限定的になった。

実証事業という事で、課題を整理するために年度途中から始めたが、教員及び保護者からは、試合参加についての問い合わせが非常に多かった。

当市では、送迎の問題も非常に重く感じている。

費用面では、指導者からのオーダーもあり、活動費が今後増えることが予想されるため、市単費でどれだけ賄えるのか、など課題である。

参加した子どもたちは、今までと違う環境での活動となったが、専門的な知識を有する方の指導であるので、有意義な活動となっている。今回は現１、２年生に限定してクラブ員を募集したが、指導者名簿を見て、３年生からの参加希望も見られた。

文化系の種目についての活動場所が課題である

●成果の評価

当初は予定したよりクラブ員は大幅に少なかったが、徐々に浸透していき徐々にクラブ員も増えてきた。

指導者登録も徐々に増えており、来年度は種目数を増やすことが可能であると考える。

各種目１０回程度の活動ができた。

行政主導型でクラブ運営を行ったが、概ね活動路線はできたと考える

●今後に向けて

実証事業で出てきた課題を１つずつ解決していき、実施種目の増を行います。ただし、送迎問題など費用が発生するものについては、解決まで時間を要す可能性がある。

啓発活動を中心に行い、多くの市民に地域移行を知っていただき、指導者の確保を行います。

また、同時に試合参加に向けて中体連の動向なども注視していき、８年度より大会参加できるよう、調整を行う。

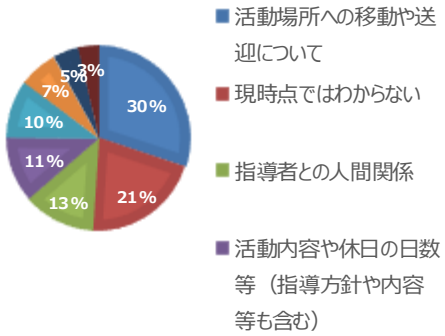
令和７年秋までには、完全実施に向け体制の整備を行う予定です。

2.実証内容と成果②

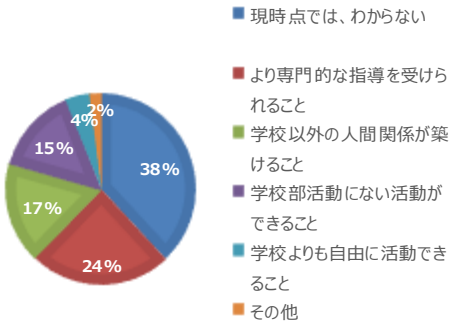
スポーツ庁

アンケート結果（保護者向け）

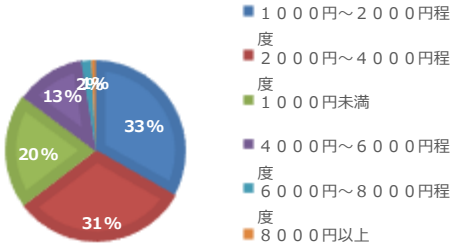
Q休日の中学校部活動が地域クラブ活動に移行した場合、最も不安に思うことは何ですか？



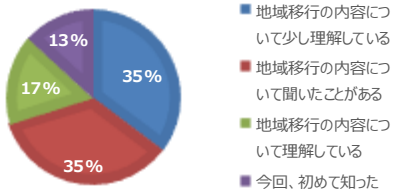
休日の中学校部活動が地域クラブ活動に移行した場合、最も期待することは何ですか？



休日の地域クラブ活動にかかる費用は、月額、どれくらいの金額が適当だと考えますか？



Q中学校部活動の地域移行について、どの程度ご存知ですか？



2.実証内容と成果③

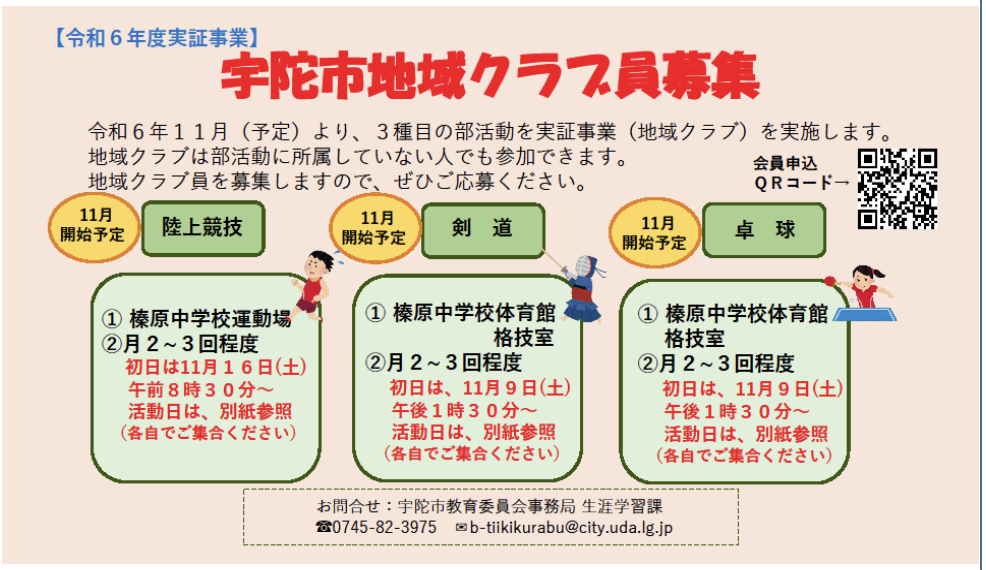
スポーツ庁

広報資料

指導者登録人材バンク



クラブ員募集チラシ



2.実証内容と成果④

スポーツ庁

参考資料（活動写真）



【陸上競技】



【陸上競技】





【卓球】

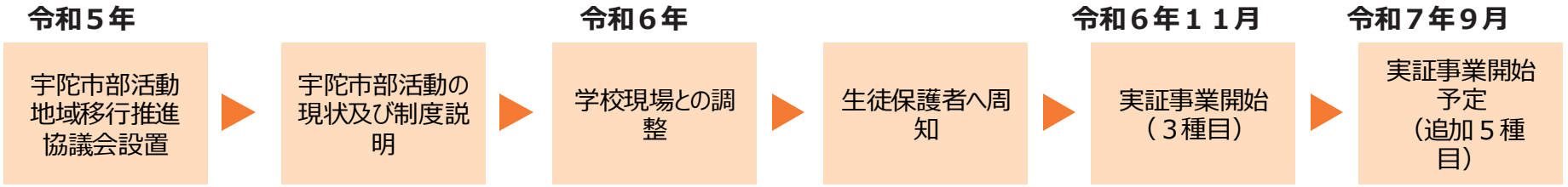


【卓球の指導者】

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



【ステークホルダー】
学校・スポーツ協会・スポーツ推進委員・文化協会・学校PTA・教育委員会事務局（教育総務課・生涯学習課）市長部局（行政経営課）

【経過】
令和５年度より「宇陀市部活動地域移行推進協議会」を設置し、地域移行について協議を重ねた。令和５年度は３回、令和６年度は６回開催し新たな地域クラブの創設に向けて検討を行った。結果、行政を運営母体とする「仮：宇陀クラブ」として、地域クラブ活動を開始した。協議会では、宇陀クラブの運営方針や、学校部活動を基本としたガイドラインの等の策定を行った。

【実施内容】
令和６年１１月より４つの中学校がある中で、交通アクセス等を考慮し１カ所で休日（土曜日）３種目（陸上・剣道・卓球）の地域クラブ活動を行った。月２回の活動を基本とし、令和８年度からの完全実施に向けて課題を洗い出すために試験的に活動を行った。市内全域より参加可能とした。参加対象は現中学１・２年生を対象とし、地域クラブ活動の実施日は、対象種目の部活動を行わないよう依頼を行った。

【実施にあたって出た課題】
活動場所を中学校としたため、活動場所の鍵の問題やクラブ員の個人情報の提供などの問題が生じた。
また、市内全域で４校ある中で活動拠点を１カ所としたため、クラブ員の送迎の問題が大きく、協議会でも、「参加したくても参加できない」などの声が学校PTAの中で上がっているとの意見が多くある。今後の大きな課題である。スクールバス等の活用については、経費が大きくかかるため、財政部局との調整が必要であり、困難な状況である。
地域クラブの事務局を行政に置いているため、協議会（PTA）では安心感がある。と意見を頂いている。しかし、担当者が専属でないため、事務量が大幅に増えている。今後は、専属職員の配置など人事担当課との調整が必要である。

【今後展開】
令和７年９月頃からは、実施種目を増やし活動を行う予定である。
持続可能な地域クラブ運営とするために、引き続き財政部局と調整を行って行く。広報活動についても地域クラブの紹介などを取り入れ、見やすく興味を引くチラシ・HPなどの作成に取り組む。
文化系の種目及び部活動にない種目の実施を予定している。
令和７年度中に「宇陀市部活動地域移行推進計画」を取りまとめ、令和８年度からの完全実施に向けて準備を進めて行く。

3.今後の方向性

スポーツ庁

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

令和６年度　地域クラブ活動への移行スケジュール

事項	４月	５月	６月	７月	８月	９月	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月
説明会 ヒアリング		対象部活教員個別ヒアリング 指導者向けQ&A作成 全教員へ説明（WEB又はチラシ） 類似団体視察		実施部活の保護者説明 Q&A作成 保護者（中学性）向けチラシ配布		実施競技保護者向けスケジュール等のチラシ 中学生向けチラシ及び登録案内			指導者意見交換会 小５・６向けチラシ配布		実施種目の保護者・生徒へのアンケート 指導者ヒアリング 全職員向けチラシ	
推進協議会		第１回協議会 HP運用開始 実施競技の決定？ HP作成		第２回協議会 遅くとも７月中には実施競技の決定		第３回協議会	中体連に奈良県の動向確認	第４回協議会 部活動地域移行推進計画作成 R7年度の方向性		第５回協議会 部活動地域移行推進計画作成		第６回協議会 部活動地域移行推進計画作成 実証事業アンケート報告
実証事業		実証事業の制度設計（指導者向け） 兼職兼業の制度設計 指導者登録の打診	指導者用ガイドライン作成	仮：「宇陀クラブ募集要項」作成 宇陀高校打診 指導員人材バンク開設	実施種目のスケジュール 指導者確保	仮：「宇陀クラブ」登録開始 指導者研修会		実証事業開始（３種目+宇陀高校？）	部活動地域移行推進計画作成			

令和７年度　地域クラブ活動への移行スケジュール　（案）

事項	４月	５月	６月	７月	８月	９月	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月
アンケート	中学校生徒											中学校生徒 中学校保護者 クラブ指導員
説明会	中学校　教職員		保護者		地域クラブ指導員							
推進協議会	第１回		第２回		第３回		第４回		第５回		第６回	
実証事業	実証事業の実施予定											
地域移行												